

第1 総 説

1 宝塚市の概要

(1) 位置及び地勢

本市は、兵庫県の南東部に位置し、六甲山系を背に南北に長く、武庫川を挟むように、市街地を形成している南部と農山村地域を形成している北部とに長尾山系で二分されています。南部では西宮市・伊丹市・川西市と、北部では神戸市・三田市・猪名川町とそれぞれ接しています。

南部地域は、北摂連山及び六甲山系の緑に囲まれ、その中央部には武庫川が流れ、北部地域は、周辺各地の開発が進む中で、今なお田園的風景を残しています。

このような立地条件、自然環境に加え、大都市への交通の利便性も高く、阪神間近郊の良好な住宅都市として発展してきました。

また一方、古くから歌劇・温泉の町として知られていますが、日本有数の植木産地であり、中山寺・清荒神などの神社仏閣、畿内文化の幾多の遺跡にも恵まれ、園芸・観光・レクリエーション都市としての性格も有しています。

位置 東経135度21分38秒 北緯34度47分58秒

広ぼう 東西 12.8 k m 南北 21.1 k m

海拔 最高 591.0m 最低 18.1m

面積 101.89 k m²



事 項	年 月 日	合併町村名	面 積 (km ²)	人 口 (人)
市制施行	昭和29年 4月 1日	宝塚町、良元村	28. 3	40,581
編入合併	〃 30年 3月 10日	長尾村	41. 1	52,918
編入合併	〃 30年 3月 14日	西谷村	105. 2	58,809
分 市	〃 30年 4月 1日	長尾村の一部を伊丹市へ分市	101. 75	55,205
境界変更	〃 48年 8月 1日	宝塚市の一部と川西市の一部の境界変更	—	—

(注) 昭和30年誤差修正により101.89km²となる。

(2) 人口等（住民基本台帳：平成28年3月31日現在）

- 1) 人口 233,877人（男 108,911人 女 124,966人）
- 2) 世帯 102,065世帯

（各年4月1日現在）

年度	世帯数	人口	人口密度(人) (km ² 当たり)	人口増加率
昭和35年	18,348	66,491	653	—
40	28,251	91,486	898	37.59%
45	40,610	127,179	1,248	39.01%
50	52,677	162,624	1,596	27.87%
55	58,130	183,628	1,802	12.92%
60	62,586	194,273	1,907	5.80%
平成元年	67,922	201,862	1,981	3.91%
5	70,621	204,099	2,003	1.11%
10	74,856	206,333	2,025	1.09%
15	85,690	218,368	2,143	5.83%
20	92,543	224,708	2,205	2.90%
25	100,174	233,967	2,296	4.12%
27	102,065	233,877	2,295	▲0.04%

(3) 都市計画区域及び用途地域の面積（平成27年3月31日最終変更）

- 1) 都市計画地域 10,189ha（市街化地域 2,608ha、市街化調整区域 7,581ha）
- 2) 用途地域

地域	面積(ha)	構成比(%)
第1種低層住居専用地域	1,089	41.3
第2種低層住居専用地域	17	0.6
第1種中高層住居専用地域	723	27.4
第2種中高層住居専用地域	245	9.3
第1種住居地域	207	7.9
第2種住居地域	41	1.6
準住居地域	25	1.0
近隣商業地域	67	2.5
商業地域	62	2.4
準工業地域	124	4.7
工業地域	35	1.3
計	2,635	100.0

2 自然環境

(1) 立地

本市は南北に細長く、市域の約80%は北摂山地の中にありますが、これをさらに、武田尾一切畑―猪名川町猪淵を結ぶ線によって、北側の旧西谷村地域と南側の長尾山地とにおおむね分けることができます。

旧西谷村地域は、北端の香合新田の裏山(528.0m)、南の古宝山(459.4m)のほかは、高さ350m前後の山並みが続く地域で、これらの広い谷間に、香合新田・上佐曾利・下佐曾利・長谷・大原野・波豆・境野・玉瀬・切畑などの集落が点在しています。

長尾山地には、大峰山(552.4m)をはじめ、検見山(475.0m)・中山(478.2m)など400mを越える山々が多く、この部分では、谷が深い南縁山麓に沿っており、そこには安場・川面・中筋・山本・平井の集落が早くから存在していました。

さらに、有馬―高槻構造線以南の市域も二つに分かれます。一つは武庫川の扇状地に立地する市街地であり、宝塚市の中心的な市街地です。もう一つは六甲山地の東端を占める岩倉山(488.7m)を中心とする花こう岩山地です。逆瀬川流域は丘陵地となっていて宝塚ゴルフクラブがあり、千種地区の台地は小林聖心女子学院を中心とする閑静な文教・住宅区域となっています。台地東麓の平地には、古くから伊子志・小林・蔵人・鹿塩などの集落が、恵まれた自然環境のもとに発展してきました。

(2) 地形

本市は、北摂山地と六甲山地の二つの山地と、武庫平野との出会いの場所です。北摂山地と武庫平野の間には有馬―高槻構造線が伸びており、これは生瀬から船坂方面を抜け、有馬温泉へと続きます。この有馬―高槻構造線は規模の大きな活断層帯が発達しており、これらの活断層が動いたことにより、標高や隆起に差異が生じており、蓬莱峡の奇勝はこの谷筋に沿う断層活動による破砕の現れです。

(3) 現存植生

本市の自然植生をみると清荒神、満願寺、素盞鳴命神社、宝山寺、中山寺、波豆八幡神社、売布神社などにコジイ・カナメモチ群集、塩尾寺にウラジロガシ・サカキ群集などの照葉樹林(照葉自然林)が残存しています。これらの照葉樹林は、かつては宝塚市の全域に広がっていましたが、弥生時代以降の人の土地利用によって破壊され、わずかに社寺林としてのみ残されました。自然植生としては照葉樹林のような気候的極相以外に武庫川などの河川にオギ群集、ツルヨシ群集などや北部地域の流紋岩地帯のゆるやかな傾斜地に湿原などの土地的極相が点在しています。代表的な湿原としては丸山湿原群と松尾湿原があげられます。丸山湿原群は生物多様性や規模からみても兵庫県下有数の湧水型湿原です。

自然植生が破壊された後に成立するのが二次植生です。近年まで農耕地を除くと大半は二次植生の里山林に被われていましたが、開発によって里山林は減少しました。現在、里山林は放置され里山放置林に変化しています。その里山放置林も北部地域では広く分布していますが、南部では市街地周辺緑地に限られています。里山放置林の大半はアカマツ・モチツツジ群集に占められていますが、その多くはマツ枯れの被害を受けており、良好な景観をもつアカマツ林はほとんど見られません。尾根部を中心に広がるアカマツ・モチツツジ群集に対

して谷部や斜面下部にはコナラーアベマキ群集が分布しています。マツ枯れによってアカマツーモチツツジ群集からコナラーアベマキ群集に遷移している林分も増加しました。植物種として、保全が急務となっているケナシベニバナヤマシャクヤク、カザグルマ、サツキ、イワチドリ、ヤガミスゲ、カワラサイコが確認できます。

(4) 動物

本市の動物の分布状態は、北部地域の山地を中心に多様な生物が生息していますが、南部の市街地では外来種が入り、生態系に影響が出ています。

ほ乳類はニホンイノシシ、キツネ、タヌキ、ニホンイタチやネズミ類、コウモリ類が、鳥類は食物連鎖の上位種となる、ハチクマ、サシバやオオタカなどが確認されています。

爬虫類では夜行性のタカチホヘビ、シロマダラ、ヒバカリも確認されています。

両生類は北部地域を中心にカジカガエル、タゴガエル、モリアオガエル、カスミサンショウウオなどが、さらには国指定の特別天然記念物であるオオサンショウウオが生息しています。

魚類では北部のため池にミナミメダカが、谷筋にはナガレホトケドジョウが健在です。

陸産貝類では、オオコウラナメクジ、ケハダビロウドマイマイ、ギュリキマイマイなどが北部で見つかっており、昆虫類は、希少な種として、ヒメタイコウチ、ギフチョウ、オオムラサキ、ミヤマアカネ、ハッチョウトンボ、ゲンジボタル、ヒメボタルなどが確認されています。

なお、近年は外来種の移入、侵入による生態系への影響が危ぶまれています。特に特定外来生物に指定されているアライグマやヌートリアが市街地でも目撃されており、北部では農作物への被害のほか、市民生活の安全を脅かすなどしています。

また、ため池や河川にオオクチバスやブルーギルなどが繁殖し、在来の魚類の生息が脅かされる状況が見られます。さらに、アカミミガメの駆除も必要に迫られています。

なお、在来種ではありますが、ニホンジカの分布域が県南部にまで拡大し、本市の北部地域では農業被害が発生し始めており、対策は急務です。